

論說

予算案 参院審議入り



たというのに国民の関心は高いとは言い難い。反撃能力（敵基地攻撃能力）の保有や防衛費の大増額、廻発回帰、加えて「次元の異なる」と大上段に構えた少子化対策など、政策の大転換がめじり押しながら、議論が深まつたとはいえないからだ。

NO203年予算案が衆院を通過し、参院審議入りした。憲法の衆院優越規定により3月中の成立が確定し

職業の軽視だ。説明を拒む典型例が「手の内を明かすことになる」などと繰り返した安全保障問題だ。

出でるとなつてゐる現状を
持つて、「われに倍増し
よつてはなゝかと申し上げ
てこそ」と答弁した。GD
相は多様性の尊重や全ての
人々の人権、尊厳を大切に
する国際社会の構築を強調
し「(法制化) 反対では

「お前がやった原発を運転するんだ」「なんだ」「安全装置の名前を教えて」「安全装置」と云ふと、机上の問題ではなく、この問題には全く関係ない

予算案で取得費2113億円を計上した米国製巡洋艦「

P比4%は20兆円に相当するため、現実的ではない」と述べたが、理解増進法案は国民党を含む国民に任せてしまうなど懸念は一歩前進せざるかは「整理中」と軌道に脱け出だしなかった。

うじ」ではない。1日の参院予算委員会で野党から「合理的理由」を問われたものの、首相は真正面から

「正々堂々議論」はどこへ

難能力を行はずる具体例を聞かれて、セロ回答。トマホークに關しては、衆院通過の前日によつて、「40発」と答弁した。

修正する事態になつた。首相が発した「倍増」という言葉だけが独り歩きして、元の格好だ。
首相秘書官の差別発言で、原発政策では、ウクライナ危機を受けたエネルギーの福井県など地域の住民が関心を寄せた60年超運転や新規建設を盛り込んだ

ならば、いつした大転換を國權の最高機關である国会でもとて、幅広い意識を醸成するよう努力すべし。

高齢の離れて生活する傾向が少子化対策を巡る議論の中でう。首相は家族関係社会支出が国内総生産（GDP）

大きな論点となつたLGBTなど性的少數者や同性婚の在り方、選択的夫婦別姓制度といった人権問題。首
安定期と脱炭素化を理由に挙げた。だが、原寸力規制委員会の委員が指摘した「審査を厳格にすればする

ないか。やがてたうの答弁では田畠潤化を優先してくるとしたが貳えない。參照議論では蘇鐵を求めた。

首相は1月の施政方針演説で、「國民の前で正々堂々

答えられなかつた。